様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	いわき短期大学
設置者名	学校法人昌平覺

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
—	子ども未来科	夜・通信	2	—	6	8	7	—
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>一覧表を各学部の以下のシラバス案内ページにおいて公開。 https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_07.html#gsc.tab=0 (一覧PDFのURL) https://www.iwaki-jc.ac.jp/img/infant/07/2024/07-07_01.pdf オンラインシラバスシステム上でも https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx のワード検索欄に「実務家教員」と入れることで検索可能。</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	いわき短期大学
設置者名	学校法人昌平賢

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人昌平賢の法人組織のページ http://shk-ac.jp/shk/legal_entity.html にて公開
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役	R7.6.18- R11.6.17	地域との連携に関する役割
非常勤	商工会連絡協議会 会長	R7.6.18- R11.6.17	産業界との連携に関する役割
非常勤	一般社団法人事務局長	R7.6.18- R11.6.17	法人に関する企画 についての役割
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	いわき短期大学
設置者名	学校法人昌平賢

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では、シラバス作成について教授会で説明を行っている。 それを経て 12 月から 1 月にかけて翌年度のシラバス作成を非常勤も含めた全教員に依頼している。その際、オンラインシラバス操作方法の手引き、記載上の注意事項及びシラバス作成チェックリストを配布している。 依頼から 1 か月程度の期間を締切りとし、各教員から提出されたシラバスについて教務委員会でチェックし、問題点がある箇所にコメントを付け返却、再提出を求め修正を行うことでシラバスの質を確保している。 また、上記のシラバスは全てオンラインで公表し、科目名や担当教員名をキーワードで検索することにより、学生及び教員、外部のステークホルダーについても参照することができる。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>以下のオンラインシラバスシステムによる https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学では、学修成果を厳格かつ厳正に評価して単位授与を行うために、平成 30 年度に、それまで各委員会等に分散したかたちで行われてきた評価(アセスメント)やアンケートについて整理、多様な観点から学位授与の方針に合致した評価を実施するために必要な指針、またそれらの評価サイクルが適切に稼働しているかどうかを検証する体制の構築のための指針を定めたアセスメントポリシーを策定した。</p> <p>(1) 各授業における具体的な評価 学期末試験の成績評価に対するパーセント上限を定め、どのように評価を組み合わせ、それぞれの評価において、学修目標のどの点を評価するかをシラバスに明示するように依頼し、確認をしている。</p> <p>(2) 学生自身の自己評価 全員に 2 年間の学びを記録する学修ポートフォリオ(令和元年度より e ポートフォリオ化)及び履修カルテを配布し、年度初め、各学期末試験後に学生自身が記入し、自己課題の明確化ができるよう指導している。また、2 年間のまとめ学びについては、本学のカリキュラムポリシーに基づき「保育・教職実践演習(幼稚園)」で確認と補強を行っている。</p> <p>(3) 適正な評価の実施 受講した学生による異議申し立て制度を確立し、それに対応できる評価のエビデンスを保存することを教員に求めている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、GP(Grade Point)について、下記の表のとおりに定めている。

得点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
成績	S	A	B	C	D
GP	4	3	2	1	0

GPA(Grade Point Average)は、この表に基づき、「 $4 \times S$ の取得単位数 $+3 \times A$ の取得単位数 $+2 \times B$ の取得単位数 $+1 \times C$ の取得単位数 $+0 \times D$ の取得単位数 $\div$ GPA対象科目履修登録単位数」により算出される。GPAの算出法は学生便覧に掲載し、年初のオリエンテーション等においても学生に周知している。

成績分布状況の把握は、GPAとファンクショナルGPAを併用し、平成26年度卒業生より継続的に行っている。ここでは過去6ヶ年のGPA結果の概要を述べる。卒業時点の学生が履修したすべての科目の平均GPA(通算)は2.49～2.86に位置し、その標準偏差は0.45～0.61となっている。また、学期ごとの平均GPA(入学時からの累積ではない)の推移パターンは毎年度異なっているが、過去6ヶ年平均の入学直後の1年次春学期の平均GPAから2年次秋学期のGPAは2.41～2.97の間で推移している。そして、下位1/4に該当する成績分布状況は卒業年度・学期ごとに異なるが、令和6年度の下位1/4以下のGPAは1年生春から2年生秋までの4期、そして通算GPAともに1.54～1.91に位置し、他の年度に比べ低くなっている。この背景に令和5年度より成績の平準化を導入したことが考えられるが、令和6年度と令和5年度と比較しても令和6年度は4期および通算GPAが低い。

GPA 下位 1/4 以下学生の分布状況 (R1～R6 年度)

		1年春	1年秋	2年春	2年秋	通算
元年度卒業生 (n=72)	GPA平均	2.62	2.68	2.67	2.54	2.62
	SD	0.56	0.48	0.42	0.53	0.45
	1/4以下GPA	2.19	2.4	2.39	2.26	2.34
	該当学生数	18	18	18	19	18
2年度卒業生 (n=67)	GPA平均	2.85	2.71	2.88	2.97	2.86
	SD	0.51	0.54	0.55	0.42	0.45
	1/4以下GPA	2.48	2.27	2.47	2.58	2.51
	該当学生数	18	18	18	17	17
3年度卒業生 (n=65)	GPA平均	2.69	2.77	2.83	2.87	2.80
	SD	0.54	0.52	0.52	0.57	0.50
	1/4以下GPA	1.96	2.01	2.13	2.05	2.09
	該当学生数	17	16	17	16	16
4年度卒業生 (n=62)	GPA平均	2.9	2.86	2.88	2.66	2.82
	SD	0.58	0.61	0.47	0.73	0.57
	1/4以下GPA	2.05	2.04	2.24	1.66	2.04
	該当学生数	15	16	15	16	16
5年度卒業生 (n=56)	GPA平均	2.62	2.79	2.5	2.62	2.67
	SD	0.64	0.59	0.53	0.64	0.56
	1/4以下GPA	1.98	1.95	1.78	1.73	1.90
	該当学生数	15	14	14	14	14
R6年度卒業生 (n=58)	GPA平均	2.64	2.41	2.49	2.48	2.49
	SD	0.55	0.55	0.54	0.74	0.61
	1/4以下GPA	1.91	1.69	1.78	1.54	1.76
	該当学生数	15	15	15	15	15
6ヶ年の平均 (n=16)	GPA平均	2.72	2.70	2.71	2.69	2.71
	SD	0.56	0.55	0.51	0.61	0.52
	1/4以下GPA	2.09	2.06	2.13	1.97	2.11
	該当学生数	16	16	16	16	16

<p>これら成績の把握は教務部が担当するが、卒業後の詳細な分析は学長顧問等が行っている。学生への分析結果の公表は行っていない。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生に配布している学生便覧に掲載した上で、インターネット上で GPA の算出方法としても公開 https://www.iwaki-jc.ac.jp/img/infant/07/07-09.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、建学の精神である儒学を根幹としつつ、地域文化ならびに幼児教育および社会福祉・児童福祉の向上に寄与する人材の育成を教育の基本方針として、3つのポリシー(入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、卒業認定・学位授与の方針)を制定し、定期的に見直しを行っている。この3つのポリシーについては、大学案内・募集要項・Webサイト等に記載し公表している。平成30年度には、アセスメントポリシーを検討し制定している。

また、学生が卒業までに身につけて欲しい力を学修成果として定めている。学修成果については、令和3年度より幼児教育コースとキャリアコース(令和7年度よりキャリア創造コースに名称変更)の2コースとなったことからその見直しを図り、新たに両コース共通の学修成果を制定している。学修成果を踏まえた卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は以下の通りである。卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)は以下の通りである。

幼児教育コース

常に探究心に富み、相手の立場を考えられる公平な心を持ち、何事にも理性と責任を持ってあたれることを保育者の理念として、子ども一人ひとりの行動と、能力、心理を正しく洞察し、個性に応じて適切な指導と助言を与えることのできる幼稚園教諭及び保育士の養成を行っているが、社会人として、また家庭人としての円満な人格形成も目指している。

このため、建学の精神である儒学に関する教養科目や学科の特性を活かした専門科目の中から卒業のために必修の科目を設定して卒業認定し、地域社会に貢献できる人材育成を目指している。

幼児教育コースでは、62単位以上の単位修得と必修・免許資格等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

キャリア創造コース

現代社会における多様な課題に対して多面的な視点から分析・解決する能力と相手の立場を考えられる公平な心を持ち、自らの人格を高めることのできる能力を身につける。このため、本学の建学の精神である儒学の教えを十分に理解し、教養科目や教育・経済・福祉に関する専門科目を複合的に学び、社会人として必要な知識・技能を有し地域に貢献できる人材育成を目指している。

キャリア創造コースでは、62単位以上の単位修得と必修等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

■学生便覧に、「卒業要件」として、2年以上在学し、卒業に必要な単位を修得しなければならない、と記載されている。卒業要件単位数内訳は下記のとおりである。

学科	必要単位数			
	必須	選択必修	選択	計
子ども未来科	7単位	11単位以上	44単位以上	62単位以上

■本学では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、幼児教育コース、キャリアコースの教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のよう定めている。

幼児教育コース

1. 実習時期、科目の教授内容を念頭に置いた科目配列の順序性への配慮
2. クラスゼミなどによる少人数教育による個別化された教育
3. 実習事前事後指導の充実とその中での体験学習による実践力の向上
4. 履修カルテ作成による自己の課題の明確化と教職・保育実践演習での確認と補強

キャリア創造コース

1. 教養・専門科目を複合的・分野横断的に学び、専門的な学習に繋がる知識や技能と社会人基礎力（リテラシー・コンピテンシー）の習得
 2. 少人数教育による個別・具体的な教育
 3. 幼児教育に関連する免許・資格については、希望選択制
- 卒業後の進路希望に応じた履修モデル提示とキャリア教育の実施

卒業の認定に関する
方針の公表方法

公表方法：本学サイト

https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information03_03.html#gsc.tab=0

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	いわき短期大学
設置者名	学校法人昌平賢

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0
収支計算書又は損益計算書	https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0
財産目録	https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0
事業報告書	https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0
監事による監査報告(書)	https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 学校法人昌平賢 中期計画 対象年度: 令和4年度~令和8年度)	
公表方法: https://www.shk-ac.jp/shk/img/information_disclosure/pdf/mtplan03.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 法人サイト https://www.shk-ac.jp/shk/information_disclosure.html#gsc.tab=0
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学・短期大学基準協会サイト https://www.jaca.or.jp/service/college/report/r4/
本学サイト https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information02_06.html#gsc.tab=0

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 子ども未来科
教育研究上の目的 (公表方法: 本学サイト) https://www.iwaki-jc.ac.jp/img/university_information/02/pdf/2024/ui_2024.pdf
(概要) ■使命と目的 『本学は学校教育法の趣旨に従い、あわせて本学創立者の建学の精神を体し、もって地域文化並びに幼児教育及び社会福祉・児童福祉の向上に寄与せんとする人材の育成を目的とする。』(学則第 2 条) (教育目的) 子どもの目線に立ち一人ひとりの行動と能力、心理を正しく理解するとともに、個性に応じた適切な指導と助言を与える事ができる幼稚園教諭並びに保育士の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 本学サイト) https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information03_03.html#gsc.tab=0
(概要) 幼児教育コース 常に探究心に富み、相手の立場を考えられる公平な心を持ち、何事にも理性と責任を持ってあたれることを保育者の理念として、子ども一人ひとりの行動と、能力、心理を正しく洞察し、個性に応じて適切な指導と助言を与えることのできる幼稚園教諭及び保育士の養成を行っているが、社会人として、また家庭人としての円満な人格形成も目指している。 このため、建学の精神である儒学に関する教養科目や学科の特性を活かした専門科目の中から卒業のために必修の科目を設定して卒業認定し、地域社会に貢献できる人材育成を目指している。 幼児教育コースでは、62 単位以上の単位修得と必修・免許資格等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。 キャリア創造コース 現代社会における多様な課題に対して多面的な視点から分析・解決する能力と相手の立場を考えられる公平な心を持ち、自らの人格を高めることのできる能力を身につける。このため、本学の建学の精神である儒学の教えを十分に理解し、教養科目や教育・福祉・経済に関する専門科目を複合的に学び、社会人として必要な知識・技能を有し地域に貢献できる人材育成を目指している。 キャリア創造コースでは、62 単位以上の単位修得と必修等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学サイト) https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information03_03.html#gsc.tab=0
(概要) 幼児教育コース <ol style="list-style-type: none">1. 実習時期、科目の教授内容を念頭に置いた科目配列の順序性への配慮2. クラスゼミなどによる少人数教育による個別化された教育3. 実習事前事後指導の充実とその中での体験学習による実践力の向上4. 履修カルテ作成による自己の課題の明確化と教職・保育実践演習での確認と補強 キャリア創造コース <ol style="list-style-type: none">1. 教養・専門科目を複合的・分野横断的に学び、専門的な学習に繋がる知識や技能と社会人基礎力 (リテラシー・コンピテンシー) の習得2. 少人数教育による個別・具体的な教育

3. 幼児教育に関連する免許・資格については、希望選択制
4. 卒業後の進路希望に応じた履修モデル提示とキャリア教育の実施

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学サイト）

https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information03_03.html#gsc.tab=0

（概要）

幼児教育コース

- ① 本学の建学の精神・教育目的を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- ② 子どもに愛情を持ち、保育者を目指して努力している人
- ③ 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

キャリア創造コース

- ① 本学の建学の精神・教育方針を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- ② 幼児教育をベースとした教育分野に興味を持ち、福祉や経済など地域の社会活動に関心を持っている人
- ③ 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

【子ども未来科入学までの学習】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、保育・福祉の学びの基盤となります。子ども未来科における専門教育は、高等学校での教育内容を理解していることを前提に行われます。したがって、高等学校卒業までに下記の学習経験を身につけることが望ましいと考えています。

国語：基礎的な読解力と表現力、思考力などのコミュニケーション・スキル

地理歴史・公民：科目における基礎的な知識および社会事象に対する関心

数学：基礎的な数学の知識と計算力

理科：自然や科学の基本的な知識や好奇心

外国語：リスニング及び文法に関する基礎的な知識

芸術：音楽、美術などの基礎的な技能と表現力

保健体育：保健・衛生に関する基礎的な知識と健康な生活を営む力を有し、健全な心と体を持つ

保育・福祉の学び：家庭科などでの関連する基礎知識とボランティア活動の実践

情報：ICT（情報通信技術）への関心、基礎的な知識

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学サイト

https://www.iwaki-jc.ac.jp/img/university_information/02/pdf/2024/ui_2024.pdf

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
子ども未来科	—	5人	2人	5人	0人	0人	12人

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	19人	19人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.iwaki-jc.ac.jp/img/university_information/02/pdf/2024/ui_2024.pdf その他最新の業績等（各教員から Researchmap 等へリンク） https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_08.html#gsc.tab=0	
	c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）	

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
子ども未来科	100人	80人	80%	200人	152人	76%	0人	0人
合計	100人	80人	80%	200人	152人	76%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
子ども未来科	58人 (100%)	5人 (8.6%)	51人 (87.9%)	2人 (3.5%)
合計	58人 (100%)	5人 (8.6%)	51人 (87.9%)	2人 (3.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 東日本国際大学健康福祉学部、いわき市、富岡町、いわき市内の多数の幼稚園・保育園、福島県内の幼稚園・保育園、その他福島県外にも幼稚園・保育園の内定者あり(順不同)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、シラバス作成について、教授会で説明を行っている。</p> <p>翌年度のシラバスについては、12月から1月かけて作成依頼をし、その際に、オンラインシラバス操作方法の手引き、記載上の注意事項及びシラバス作成チェックリストを配布している。</p> <p>シラバス入力締切り後、各教員から提出されたシラバスについて教務委員会でチェックし、問題点がある箇所コメントを付け返却、再提出を求め、修正を行うことで、シラバスの質を確保している。</p> <p>また、上記のシラバスを全てオンラインで公表し、科目名や担当教員名をキーワードで検索することにより、学生及び教員、外部のステークホルダーについても参照することができる。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>1. 各授業における具体的な評価</p> <p>学期末試験の成績評価に対するパーセント上限を定め、どのように評価を組み合わせ、それぞれの評価において、学修目標のどの点を評価するかをシラバスに明示するように依頼し、確認をしている。</p> <p>2. 学生自身の自己評価</p> <p>全員に2年間もしくは3年間の学びを記録する学修ポートフォリオ(令和元年度よりeポートフォリオ化)及び履修カルテを配布し、年度初め、各学期末試験後に学生自身が記入し、自己課題の明確化ができるよう指導している。また、2年間もしくは3年間のまとめ学びについては、本学のカリキュラムポリシーに基づき「保育・教職実践演習(幼稚園)」で確認と補強を行っている。</p> <p>3. 適正な評価の実施</p> <p>受講した学生による異議申し立て制度を確立し、それに対応できる評価のエビデンスを保存することを教員に求めている。</p>										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業又は修了に必要な となる単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>子ども未来科</td> <td>62単位</td> <td>有</td> <td>50単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	—	子ども未来科	62単位	有	50単位
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)						
—	子ども未来科	62単位	有	50単位						
GPAの活用状況 (任意記載事項)	公表方法：									
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：学修状況に関するIRデータについて以下のアドレスで公表している。 https://www.shk-ac.jp/edulop/index.php/ir-data									

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学サイト</p> <p>https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information05_02.html#gsc.tab=0</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
—	子ども未来科	680,000円	230,000円	300,000円	その他は、設備費、教育充実費、年間諸費など

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>専門の部署として教務部・学生部が設置されているが、各学年でゼミが必修となっており、学生は何らかのゼミに所属しているため、履修からはじまる学修のプロセスの指導や生活の相談は、各ゼミが中心となり、教務部・学生部が連携するかたちで行われている。</p> <p>教務部では、主に学生の履修等に関する入学・休学・退学・卒業に関する事務・支援や授業及び卒業に関する事務・支援を取り扱う。</p> <p>学生部では、学生生活を円滑に送れるようにする支援を行う。主に奨学金に関する事務・支援や学生証、学生定期、学割等の発行に関する事務・支援を取り扱う。</p> <p>給付型奨学生の採用候補者となる入学者又はその他の入学者への、入学手続金の徴収を猶予する取組を実施している。入学金相当額を入金後に分納願を提出した入学者については、前期分授業料等の支払いを最長で春学期試験前まで猶予している。</p> <p>https://www.iwaki-jc.ac.jp/college_life05_01.html#gsc.tab=0</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>進路選択に係る専門の部局としてキャリアセンターを設置し、ゼミを中心とする活動とキャリア教育を連動し、学生、保護者、大学が三位一体となりキャリア教育体制を築いている。センターポリシーを明示して、学生ひとり一人の将来の進路や人生における働き方や生き方を考え、目先の就職という“点”で考えるのではなく、人生の終焉までの“線”を通して考えてもらう支援を行なっている。</p> <p>いわき短期大学では、1年次の必修科目として「人間力とキャリアⅠ」を開講し、人間力の向上とキャリア形成を図っている。また、キャリアセンターにて学生との個別就職面談を実施し、就活状況の把握や進路選択の支援を行っている。卒業年次の学生(主に2年生)に対しては就職セミナーを開催し、進路選択における情報を提供している。</p> <p>https://www.iwaki-jc.ac.jp/career01_01.html#gsc.tab=0</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保健管理センターを設置して、学生・教職員の健康をサポートしている。定期及び臨時の身体測定、健康診断の他、大学内でのケガや急な体調不良などに迅速に対応している。</p> <p>また、学生相談室では、身体的な健康だけではなく、心の悩み、身体、対人関係、家庭、異性関係、性格、性の問題等、学生生活をよりよく過ごすための、さまざまな健康相談にも専門の担当者が相談に応じている。</p> <p>https://www.iwaki-jc.ac.jp/college_life05_03.html#gsc.tab=0</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：本学サイト</p> <p>https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information02_05.html#gsc.tab=0</p> <p>備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F207310101385
学校名 (〇〇大学 等)	いわき短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人昌平覺

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		29人（ ）人	28人（ ）人	29人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	13人	14人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	一人	一人	
区分外(多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者(年間)				0人()人
合計(年間)				29人()人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	一人	0人
計	人	一人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。